

第

9

期

株主通信

中間期

平成18年9月1日 ▶ 平成19年2月28日



株式会社

鉄人化計画®

証券コード:2404



TETSUJIN
INDEX

9月



「カラオケの鉄人」 武蔵小杉店オープン



武蔵小杉は東急線やJRなど3線が乗り入れ、「利便性」の高い都心のベッドタウンとして栄えています。またかつては中原街道の宿場町であったことから旧跡も多く、歴史を感じる「落ち着いた街」です。平成18年9月15日にオープンした「カラオケの鉄人・武蔵小杉店」は、駅から徒歩1分という好立地にあり、個性的なデザインのルームとコスプレ等のオプションが売りもの。また当店には昨年開発した「ミニ鉄人システム」を導入。充実した楽曲数で地域のお客様にご満足いただいております。

2006

9

10

11

12

2007

1

2

12月



「カラオケの鉄人」上大岡店オープン

横浜市の「副都心」である上大岡。京浜急行上大岡駅西口を出て、「鎌倉街道」をはさんだ目の前、市営地下鉄出口のすぐ上にある上大岡店。平成18年12月8日にオープンした当店は、スタイリッシュな色彩と間接照明により「ワンランク上」のイメージを演出しています。また同一フロアには居酒屋「きざみ」も営業。カラオケと創作料理を同時にお楽しみいただけます。「ミニ鉄人システム」による充実した楽曲数とあわせて、お客様満足度の高いお店です。



グループ会社紹介

株式会社システムプランベネックス

平成10年8月にコンピューター周辺機器のハード・ソフトウェア開発、製造および販売を目的として設立された「株式会社システムプランベネックス」。同社は当社カラオケ店舗に配信しているカラオケ集中管理システム「鉄人システム」の共同開発者でもあります。同社は、カラオケ店舗における入室管理や飲食オーダー等を集約したフロントPOSシステム「SPLASH」の開発や、「鉄人システム」との連動による業務効率の向上、そして「カラ鉄NAVI」のコンテンツ開発等を手掛けており、当社にとっての「メインパートナー」といえます。



最新情報

中規模店舗向け「ミニ鉄人システム」を開発。コストパフォーマンスの面でも当社に大きく貢献しています。



からふね屋珈琲株式会社

昭和47年より京都を中心に京阪神地区において事業展開している「からふね屋珈琲店」。コーヒーショップ3形態（低価格型・専門店型・フルサービス型）のうち、「からふね屋珈琲店」はフルサービス型に位置づけられています。フルサービス型特有の「充実したサービス」と「安堵感」は当社主力事業であるカラオケ店舗および新規事業であるまんが喫茶（複合カフェ）にも十分活用できるものであり、双方のメリットを取り入れながら「新たなサービス形態」の構築も視野に入れています。



最新情報

収益構造の見直しを終え、現在新メニューの開発とブランド力の強化に取り組んでいます。



株式会社エクセルシア

平成12年に「モバイルを核としたデジタルサウンド制作会社」として設立され、大手着メロサイトにハイクオリティな音源を制作・提供してきた「株式会社エクセルシア」。音源制作会社ならではの高音質と低価格により常に業界上位に位置づけられてきた同社のノウハウは、当社主力事業であるカラオケ店舗において「オリジナル音源の制作と提供」という形で実を結び、他社との差別化を図る上でも強力なソフトとなりうるものと確信しております。



最新情報

「ASP（アプリケーションサービスプロバイダ）サービス」を開始しました。「貴方の会社の社歌をカラオケにしてみませんか？」と銘打った新プロジェクトを当社と共同で進めています。



株式会社クリエイト・ユー

昭和63年より埼玉県を拠点としてまんが喫茶（複合カフェ）を展開している「株式会社クリエイト・ユー」。東京都および神奈川県を中心に事業展開している当社において、都心のベッドタウンである埼玉県への進出は、出店コストの低減のみならず、主力であるカラオケ事業の今後の展開における試金石ともいえます。



最新情報

「まんが喫茶の原点」に立ち返り、蔵書数の充実による地域一番店を目指しています。





人気の秘密

上大岡店

〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-14-10 中山ビル



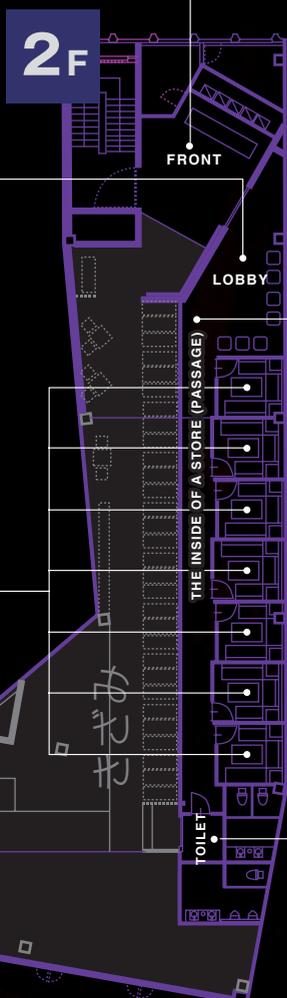
受付を済ませて一步入ると、そこはレトロモダンなロビー。お部屋へご案内するまでの間70年代テイストをたっぷり満喫できます。



シンプルな内装ですが、光の濃淡により部屋全体に立体感を持たせました。優しい光を全体に広げ、雰囲気のある空間を演出。柔らかな光は「癒し」を、硬い光は「透明感」を表現しています。



効果的な間接照明による濃淡のグラデーションが、訪れるお客様の目に鮮やかに飛び込んできます。また同フロアには『和風Diningぎざみ』もあり、「カラオケと居酒屋が同居する」ことも他店にはない魅力です。



「非日常」を意識した光の演出。綺麗なグラデーションが、お客様をお部屋まで導いてくれます。



洗浄・防菌・防臭で常に「清潔感」のある空間を維持しています。

3F

武蔵小杉店

〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町3-441 武山ビル



一見「スタジオ」か「ライブハウス」と見紛うパーティールーム。シンプルなものにも「最新の音響設備」や「ミラー張り」といった心憎い演出がなされています。アーティスト気分でする存分シャウトしてください!!



当店のルームは各部屋全て「個性的」! オンドックスなものからアジアンテイストなものまで多岐に渡り、これぞルームの『おもちゃ箱』といった感じです。どのルームに当たるかはあなたの運次第!



カラ鉄といえはすっかりおなじみの「コスプレ」。中でも当店は種類が豊富! 覚悟を決めてコスプレすれば、違った自分に出会えるかも! もちろん男性サイズもありますよ!

中型カラオケ店の好調と生産性向上策などにより、 収益のV字回復を果たしました。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第9期中間決算のご報告をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を述べさせていただきます。

当社は、「カラオケルーム運営事業」「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」の3事業を中核に、「遊び」が持つ本質的な価値の創造を追究していくことを通じて、国民の豊かな文化的生活への貢献を目指しています。また、アミューズメント・ビジネスの可能性を拡大していくために、企業グループとして保持する開発機能を増強するとともに、「フルサービス型珈琲ショップ運営事業」「音響設備販売事業」「音源販売事業」といった、多角的な事業展開を推進しています。

おかげさまで、当中間期の営業状況については、カラオケルーム運営事業における「ミニ鉄人システム」を設備した中型店舗の好調と、コスト削減および生産性向上策などにより、当初の見込みを超える大幅な収益改善を果たし、連結売上高3,404百万円(前年同期比16.6%増)、連結経常利益141百万円(前年同期経常損失61百万円)、連結中間純利益31百万円(前年同期中間純損失89百万円)と、黒字転換することができました。

引き続き下半期においても、好調の維持に向けて全力を挙げ、前期末に遺憾ながら見送らせていただいた配当の復配を目指し、努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当事業へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



平成19年5月

代表取締役社長 **日野 洋一**

Q1 御社の主力事業における市場環境についてお聞かせください。

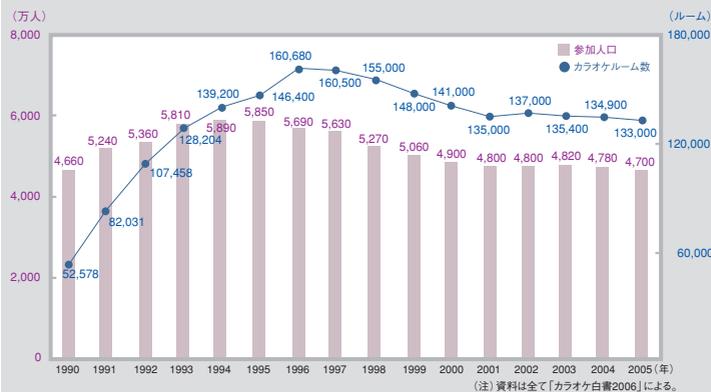
現在の当社は、首都圏を中心に店舗営業する「カラオケルーム運営事業」「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」の3つを主力事業として展開しています。

カラオケルーム業界では、2005年のカラオケ参加人口が約4,700万人（カラオケ白書2006）と微減傾向を示しており、平均的な利用料金も減少傾向にあるなど厳しい状況ですが、一部のカラオケ施設では、商圏内の施設数が減少傾向にある影響で需給バランスが改善し、業績が好転するものも現れています。大手カラオケチェーン各社は、集客強化策や不採算店の解消を進めています。

ビリヤード・ダーツ遊技場業界では、デジタルダーツ遊技機の高い人気が続く中、同機器の供給が増えたために競合出店が目立ってきています。

まんが喫茶（複合カフェ）業界の市場規模は、関東・東海・近畿地方を中心に拡大傾向にあり、特に都市部の駅前周辺では、参入障壁の低さから直営店・フランチャイズ店とも新規出店が加速しています。また、コンテンツの多様化や設備の充実を図る店舗が増えるなど、競争が激化しています。

カラオケ参加人口とカラオケボックスルームの推移
カラオケボックスの市場規模は**4,210億円市場**（前年比2.6%）



Q2 そうした状況の中で、御社は当中間期においてどのような取り組みを行ってききましたか？

「カラオケルーム運営事業」では、中小規模店舗向けの「ミニ鉄人システム」を導入したカラオケ店舗2店を新規出店し、直営店舗数を29店舗といたしました。営業面では、前期に出店した店舗に加え、この新規2店舗が好調で、業績を大きく牽引いたしました。また、既存店の収益改善策として実施したフードメニュー見直しによる仕入コスト削減や人・設備の生産性向上策により、店舗収益が大幅に改善されました。

一方、「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」では、近隣の競合店増加

を受け、人気の高いデジタルダーツ遊技機に加え、アミューズメント遊技機を増設するなどアミューズメント性を強調した店舗運営を行いました。

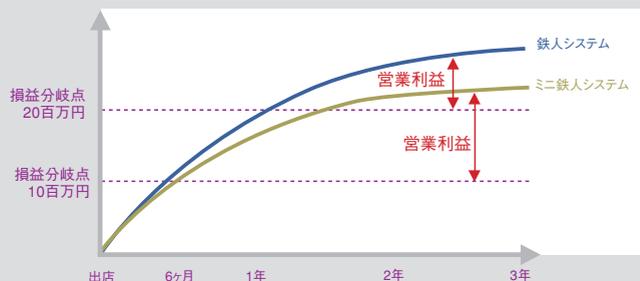
「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」では、前期から4店舗がM&Aにより新たに加わりましたが、当社グループの店舗周辺（駅前立地）にフランチャイズ競合店が多数出店し、競争激化により業績が伸び悩んでいます。

Q3 通期目標の達成に向けた下半期の展開についてお聞かせください。

前述の通り当社は、当中間期において当初の見込みを超える大幅な収益回復を果たしましたが、主力事業の各業界における競争激化の状況から、通期の業績予想については数値を据え置き、売上高7,115百万円（前期比11.8%増）、経常利益186百万円（前期経常損失52百万円）、当期純利益60百万円（前期は当期純損失106百万円）を見込んでいます。

この目標達成に向けて、当社では引き続き「カラオケルーム運営事業」における40ルーム基準（大型）から、「ミニ鉄人システム」による20ルーム基準（中型）への出店シフトを継続し、投下コストを抑制するとともに、店舗収益性の向上を追求いたします。また、居酒屋など他業態とのタイアップによる既存店の効率化や、ASP（アプリケーションサービスプロバイダ）サービスの展開といったコンテンツビジネスとの有機的融合を進めていきます。

大型店舗から、20ルームの中型店舗出店へシフト 当期3店舗出店計画（投資金額 @ 1億円×3店舗）



超大型店舗



中型店舗



Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は、直営出店やM&A戦略、「ミニ鉄人システム」の展開などにより主力3事業の安定的な成長を図りつつ、グループ会社が有するシステムテクノロジー面とコンテンツ面の優位性を融合したビジネスモデル＝「コンテンツ・システムインテグレーター」を目指し、将来に向けてブランドを確立していきます。

前期においては赤字決算という結果となり、株主の皆様にご心配をおかけしましたが、おかげさまで当期はV字回復の見通しとなりました。株主の皆様には、重ねて御礼申し上げますとともに、今後も当社事業へのご理解をいただき、長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

コンテンツ・システムインテグレーターとして

One-Stop

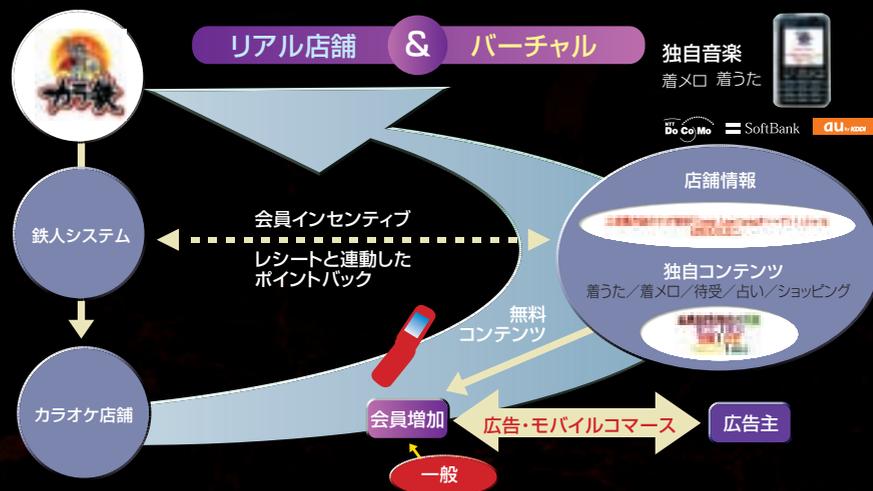
オペレーションを構築。

Real business

&

Contents business

One-Stop
Operation



当社は今後、「カラオケルーム運営事業」「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」のリアルビジネスにおける店舗展開と、コンテンツビジネスの積極的な融合を展開していく考えです。

例えば、グループ会社である（株）エクセルシアにより、着うた・着メロ・占い・待受画面といったモバイル用の独自コンテンツを配信。これを、カラオケルーム運営事業で展開している会員システムと連動させ、会員向けのインセンティブとして会員増・集客増に

つなげたり、店舗情報を発信するなど、店舗展開（リアル）とコンテンツビジネス（バーチャル）を結ぶOne-Stopオペレーションの構築を図っています。

また鉄人システムでは、メーカー楽曲以外にも、インディーズアーティストの楽曲や社歌・校歌といったオリジナル音源を提供することができます。こうした差別化においても、コンテンツ・システムインテグレーターとしての優位性を発揮していきます。

鉄人グループの店舗ネットワーク

(平成19年4月30日現在)

店舗情報



カラオケの鉄人 27店舗



カラオケ屋 1店舗



カラオケ Y'a 1店舗



サンビリ 5店舗



まんが帝国 1店舗



アジュールエッセ 8店舗



コミックライブカフェ 1店舗



からふね屋珈琲店 11店舗



Cafe Asyl 1店舗

福岡県

「Cafe Asyl」
中洲店

兵庫県

「からふね屋珈琲店」
プレンティ店

大阪府

「からふね屋珈琲店」
高槻店/ビオルネ店/
箕面店

京都府

「からふね屋珈琲店」
熊野店/円町店/西院店/
山科店/小倉店/竹田店/
京都国立博物館店

千葉県

「カラオケの鉄人」
行徳店/津田沼店/
松戸店

「アジュールエッセ」
千葉南店/千葉中央店

神奈川県

「カラオケの鉄人」
溝の口店/中華街店/
桜木町店/鶴見店/
戸塚店/登戸店/
武蔵小杉店/上大岡店

「サンビリ」
向ヶ丘遊園店/
伊勢佐木町店

北海道

「カラオケの鉄人」
札幌店

埼玉県

「カラオケの鉄人」
大宮店/川越店/
ファゼンタ大宮店

「アジュールエッセ」
蕨店/浦和店

茨城県

「カラオケの鉄人」
土浦サントスワールド店

「コミックライブカフェ」
土浦サントスワールド店

東京都

「カラオケの鉄人」
銀座店・銀座ファゼンタ店/
駒沢店/環七西新井店/
用賀店/新小岩店/
町田店/自由が丘店/
大泉学園店/蒲田店/
新宿コマ劇場前店/
飯田橋神楽坂店

「カラオケ屋」
中目黒店

「カラオケY'a」
高尾店

「サンビリ」
吉祥寺店/荻窪店/
西葛西店

「まんが帝国」
恵比寿店

「アジュールエッセ」
高尾店/戸越銀座店/
王子店/都立大学店

株主優待のお知らせ

毎年8月31日現在の株主および実質株主の皆様に対し、下記のどちらかお好きな商品を1点贈呈いたします。

1 株主様ご優待カード

このカードは下記店舗にてお使いいただけるご優待カードです。受付時のカードご提示で下記「株主様コース」がご利用になれます。有効期限は1年間。期間中は何回でもお使いいただけます。

※他のサービス券とは併用できません。また、紛失された場合の再発行はできませんのでご了承ください。

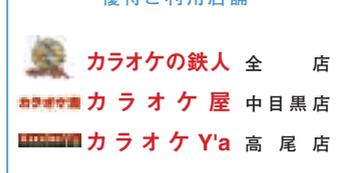


優待内容 <株主様コース>

カラオケルーム

19時以降のご入場に限り
お一人様500円割引
(5名様まで)

優待ご利用店舗



ビリヤード/まんが(複合カフェ)

全時間帯、ご利用料金の総額から
30%を割引
(5名様まで)

※ダーツのプレイ料金、ネイル料金は対象から除外させていただきます。

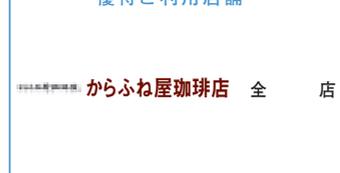
優待ご利用店舗



喫茶店/カフェ

全時間帯、ご利用料金の総額から
20%を割引
(5名様まで)

優待ご利用店舗



2 当社特製「鉄人くんタオル」

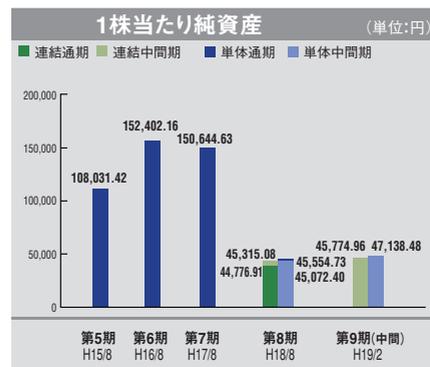
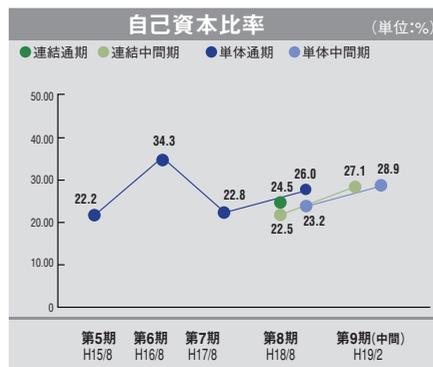
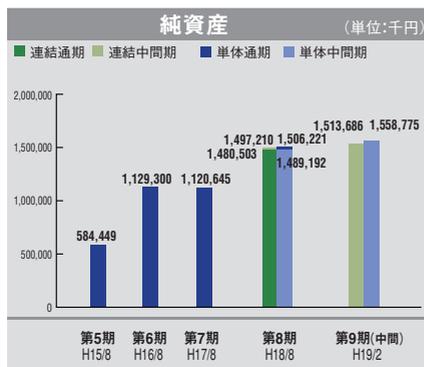
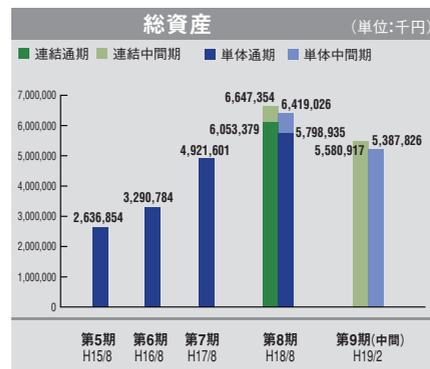
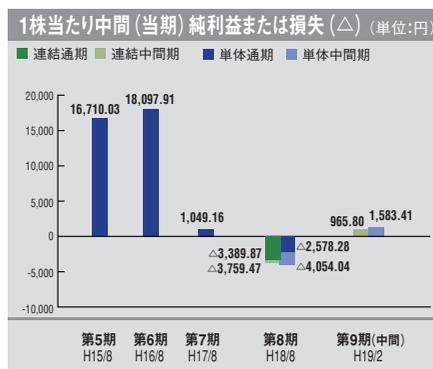
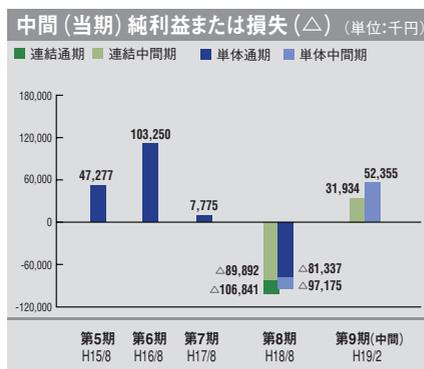
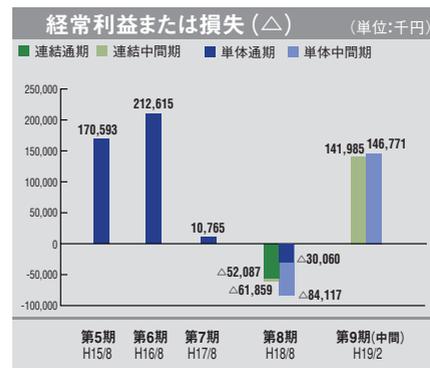
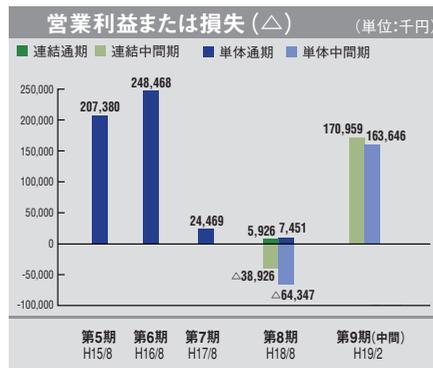
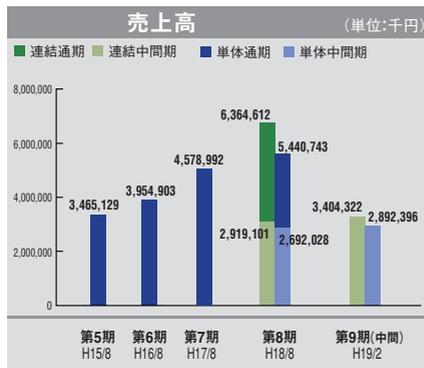
当社イメージキャラクターの「鉄人くん」をデザインした特製スポーツタオルです。



【お問合せ先】東京都目黒区中目黒2-6-20 管理本部 TEL.03-5773-9184

TETSUJIN
株式会社 鉄人化計画®

主要財務データ



鉄人グループの経営成績

カラオケルーム運営事業

当事業におきましては、ミニ鉄人システムを設備したカラオケ店舗2店の新規出店を実施し、当中間連結会計期間の直営店は29店舗となりました。

営業面におきましては、比較可能な既存店の売上高は、前年同期比97.0%となりましたが、前連結会計年度に出店した店舗および当中間連結会計期間の新店の業績が好調で当事業の収益を牽引する結果となりました。また、前連結会計年度に大きく影響を及ぼした超大規模カラオケ店舗2店の営業稼働に対する施策を最優先に実施してまいりました。具体的には、新宿歌舞伎町地区の店舗におきましては、販促力を強化した運営を実施し業績を伸ばしております。札幌すすきの地区の店舗におきましては、フードメニューを充実させたサービスを実施しましたが業績への影響は希少でありました。

既存店の収益改善の取組みとして実施いたしましたフードメニューの見直しによる仕入コストの削減や人・設備の生産性を高める施策により、店舗収益は大幅に改善されました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は2,535百万円（前年同期比11.1%増）となりました。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業

当事業におきましては、近隣におけるダーツバー業態等での競合店の出店が増加したことを受け、引き続き人氣の高いデジタルダーツ遊技機に加え、アミューズメント遊技機を増設するなどアミューズメント性を強調した店舗運営を行ってまいりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は200百万円（前年同期比3.7%減）となりました。

まんが喫茶（複合カフェ）運営事業

当事業におきましては、M&Aにより前連結会計年度より複合カフェ店舗4店が新たに加わりましたが、当社グループの店舗周辺（駅前立地）においてフランチャイズ競合店の多数出店による競争の激化により業績は伸び悩んでおります。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は227百万円（前年同期比39.9%増）となりました。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業

当事業におきましては、京阪神地区において「からふね屋珈琲店」の屋号でフルサービス型珈琲ショップとして11店舗の運営を行ってまいりました。当中間連結会計期間におきましては、POSシステムを整備するとともに、物流センターを業務委託するなど効率化と原価コストの低減に取り組んでまいりました。また、営業面においては、長期間変更のなかった飲食メニューの刷新や地域柄外国人の観光客が多いため外国人向けのメニューの開発に取り組んでまいりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は245百万円となりました。

音響設備販売事業

当事業におきましては、前連結会計年度からカラオケメーカー向け周辺機器の販売が続いており、メンテナンス業務も順調に推移いたしました。また、カラオケ機器並びに周辺機器の販売をいたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は124百万円（前年同期比26.2%減）となりました。

音源販売事業

当事業におきましては、携帯電話用コンテンツプロバイダ向けの着メロ・着うた音源の制作および販売をいたしました。また、新たなビジネスモデルとしてASPサービスや商業サイト向け着メロ、着うた等の供給サービス事業を開始いたしました。

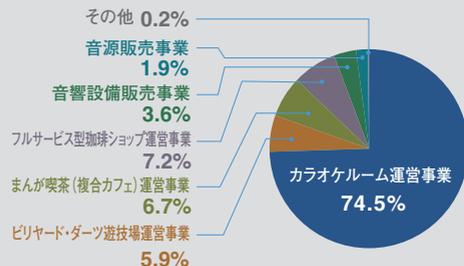
これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は63百万円（前年同期比25.6%減）となりました。

その他

その他の事業としては、「鉄人システム」のレンタルおよびカラオケ店舗の運営に係るコンサルティングを行いました。これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は7百万円（前年同期比30.1%減）となりました。

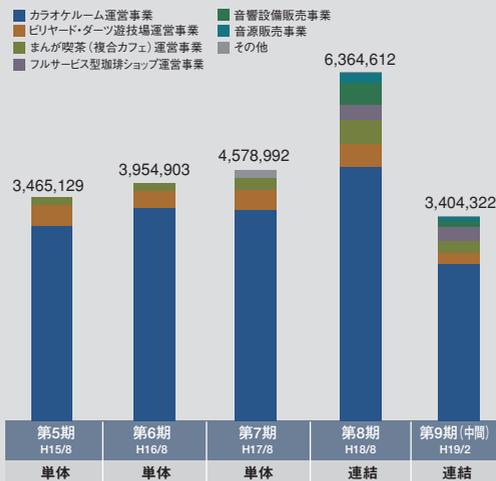
なお、当社グループは、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用していることから、カラオケ店舗1店（カラオケの鉄人・札幌店）およびビリヤード・ダーツ店舗1店および複合カフェ店舗2店において営業フロアの縮小による効率化を決定したことにより減損会計が適用され、当社グループが所有する固定資産について減損損失を42百万円計上いたしました。

事業別売上高構成比



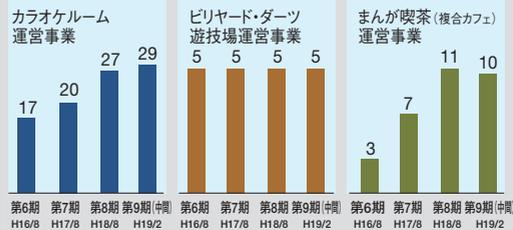
事業別売上高の推移

（単位：千円）



※注 当社は、第8期より連結財務諸表を作成しております。

店舗数の推移



連結財務諸表

中間連結貸借対照表 (要約)

単位：千円

科目	前中間期 (平成18年2月28日現在)	当中間期 (平成19年2月28日現在)	前期 (平成18年8月31日現在)
資産の部			
流動資産	2,393,223	1,135,131	1,572,096
固定資産	4,254,131	4,445,785	4,481,282
有形固定資産	2,587,433	2,580,291	2,589,988
無形固定資産	406,166	533,288	567,603
投資その他の資産	1,260,532	1,332,205	1,323,689
資産合計	6,647,354	5,580,917	6,053,379
負債の部			
流動負債	2,408,402	1,819,222	1,927,073
固定負債	2,741,742	2,248,008	2,645,801
負債合計	5,150,144	4,067,230	4,572,875
資本の部			
資本金	731,700	—	—
資本剰余金	724,755	—	—
利益剰余金	40,754	—	—
資本合計	1,497,210	—	—
負債及び資本合計	6,647,354	—	—
純資産の部			
株主資本	—	1,513,686	1,481,553
評価・換算差額等	—	—	△1,050
純資産合計	—	1,513,686	1,480,503
負債及び純資産合計	—	5,580,917	6,053,379

中間連結損益計算書 (要約)

単位：千円

科目	前中間期 (平成17年9月1日～ 平成18年2月28日)	当中間期 (平成18年9月1日～ 平成19年2月28日)	前期 (平成17年9月1日～ 平成18年8月31日)
売上高	2,919,101	3,404,322	6,364,612
売上原価	2,564,413	2,824,838	5,559,846
売上総利益	354,687	579,483	804,765
販売費及び一般管理費	393,614	408,524	798,839
営業利益または損失(△)	△38,926	170,959	5,926
営業外収益	25,091	18,094	36,841
営業外費用	48,023	47,069	94,855
経常利益または損失(△)	△61,859	141,985	△52,087
特別利益	5,293	—	7,928
特別損失	75,722	46,561	91,175
税金等調整前中間(当期)純利益または損失(△)	△132,288	95,423	△135,334
法人税、住民税及び事業税	38,585	73,929	41,423
法人税等調整額	△80,981	△10,440	△69,916
中間(当期)純利益または損失(△)	△89,892	31,934	△106,841

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

単位：千円

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(平成17年9月1日～ 平成18年2月28日)	(平成18年9月1日～ 平成19年2月28日)	(平成17年9月1日～ 平成18年8月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	101,269	339,426	428,751
投資活動による キャッシュ・フロー	△788,576	△260,732	△1,860,411
財務活動による キャッシュ・フロー	1,383,168	△416,651	1,269,179
現金及び現金同等物の 増加額または減少額(△)	695,860	△337,957	△162,480
現金及び現金同等物の 期首残高	1,117,639	955,159	1,117,639
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	1,813,500	617,201	955,159

中間連結株主資本等変動計算書

単位：千円

当中間連結会計年度 (平成18年9月1日から平成19年2月28日まで)	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他 有価証券評価差額金	評価・換算差額等 合計	
平成18年8月31日残高	732,295	725,452	23,805	1,481,553	△1,050	△1,050	1,480,503
中間連結会計期間中の変動額							
ストックオプション行使による新株の発行	99	99	—	198	—	—	198
中間純利益	—	—	31,934	31,934	—	—	31,934
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)					1,050	1,050	1,050
中間連結会計期間中の変動額合計	99	99	31,934	32,132	1,050	1,050	33,182
平成19年2月28日残高	732,394	725,552	55,739	1,513,686	—	—	1,513,686

単体財務諸表

中間貸借対照表（要約）

単位：千円

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(平成18年2月28日現在)	(平成19年2月28日現在)	(平成18年8月31日現在)
資産の部			
流動資産	2,099,519	822,319	1,215,458
固定資産	4,319,507	4,565,506	4,583,477
有形固定資産	2,501,784	2,461,659	2,480,658
無形固定資産	58,349	64,161	68,092
投資その他の資産	1,759,372	2,039,686	2,034,726
資産合計	6,419,026	5,387,826	5,798,935
負債の部			
流動負債	2,223,424	1,697,405	1,746,790
固定負債	2,706,409	2,131,645	2,545,923
負債合計	4,929,834	3,829,051	4,292,714
資本の部			
資本金	731,700	—	—
資本剰余金	724,050	—	—
利益剰余金	33,442	—	—
資本合計	1,489,192	—	—
負債及び資本合計	6,419,026	—	—
純資産の部			
株主資本	—	1,558,775	1,506,221
資本金	—	732,394	732,295
資本剰余金	—	724,744	724,645
利益剰余金	—	101,635	49,280
純資産合計	—	1,558,775	1,506,221
負債及び純資産合計	—	5,387,826	5,798,935

中間損益計算書（要約）

単位：千円

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(平成17年9月1日～平成18年2月28日)	(平成18年9月1日～平成19年2月28日)	(平成17年9月1日～平成18年8月31日)
売上高	2,692,028	2,892,396	5,440,743
売上原価	2,424,821	2,419,238	4,806,403
売上総利益	267,206	473,157	634,339
販売費及び一般管理費	331,553	309,511	626,887
営業利益または損失(△)	△64,347	163,646	7,451
営業外収益	26,884	28,233	53,600
営業外費用	46,655	45,107	91,113
経常利益または損失(△)	△84,117	146,771	△30,060
特別利益	5,293	—	7,445
特別損失	71,551	42,442	86,943
税引前中間(当期)純利益または損失(△)	△150,375	104,328	△109,558
法人税、住民税及び事業税	7,797	64,376	15,834
法人税等調整額	△60,997	△12,403	△44,055
中間(当期)純利益または損失(△)	△97,175	52,355	△81,337
前期繰越利益	130,617	—	—
中間未処分利益	33,442	—	—

会社概要 / 株式状況

(平成19年2月28日現在)

会社概要

社名	株式会社鉄人化計画 (TETSUJIN Inc.)
設立	1999年12月14日
本社所在地	〒153-0061 東京都目黒区中目黒2-6-20
資本金	732,394,820円
事業概要	カラオケルーム「カラオケの鉄人」をはじめとした空間提供型アミューズメント施設の運営
従業員数	社員 122名(連結) / 99名(単体)
事業所	<p>カラオケ店舗 29店舗: カラオケの鉄人(27店舗) / カラオケ屋(1店舗) / カラオケY'a(1店舗)</p> <p>ビリヤード店舗 5店舗: サンビリ(5店舗)</p> <p>まんが喫茶(複合カフェ)店舗 10店舗: まんが帝国(1店舗) / アジュールエッセ(8店舗) / コミックライブカフェ(1店舗)</p> <p>カフェ店舗 12店舗: からふね屋珈琲店(11店舗) / Cafe Asyl(1店舗:休業中)</p>

役員構成

代表取締役社長	日野 洋一
取締役副社長	荒武 弘美
常務取締役	浦野 敏男
取締役	高橋 等
取締役	星川 正和
常勤監査役	緑河 久彰
監査役	近藤 英世
監査役	宮田 修

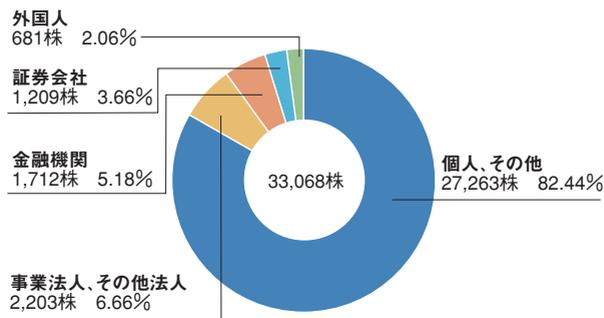
株式等の状況

発行可能株式総数	118,560株
発行済株式総数	33,068株
株主数	2,431名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日野 洋一	12,300	37.20
(株)横浜銀行	1,200	3.62
野田 亨一	1,004	3.03
佐藤 幹雄	700	2.11
(株)アトラス	516	1.56

株式の所有者別分布状況



株主メモ

- 事業年度 | 9月1日～翌年8月31日
- 期末配当金受領株主確定日 | 毎年8月31日
- 中間配当金受領株主確定日 | 毎年2月末日
- 定時株主総会 | 毎事業年度終了後3ヶ月以内
- 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 | 〒100-8212 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- (同送付先) | 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
各種お問い合わせ 0120-232-711 (通話料無料)
各種手続用紙のご請求 0120-244-479 (通話料無料)
- 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 公告方法 | 電子公告により行います。 <http://www.tetsujin.ne.jp/iframe.htm>
(ただし、電子公告によることができない事故や、その他のやむを得ない事由が発生した時には、日本経済新聞に掲載いたします。)

IR情報につきましては、当社のホームページにも掲載されておりますので、ご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.tetsujin.ne.jp>



株式会社

鉄人化計画®

Copyright©2007 株式会社鉄人化計画



この株主通信は環境に優しい大豆インキを使用して印刷しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。